

イチゴ農家で独立、決意新た

県やJA全農岐阜の支援でイチゴ栽培の研修を受けた4人が、県庁で古田肇知事に成果を報告し、独立に向けた意気込みを語った。

JA全農岐阜は2008年度から、いちご新規就農者研修所(岐阜市)を運営。9年間で33人が学び、全員が県内で就農。修了者によるイチゴの栽培面積は県全体の2割を占める。

4人は第10期生の20〜40代の男女。今月末までの予定で14カ月間の研修を受けている。すでに全員が県内でハウスの建設など独立の準備を進めている。

JA研修4人、知事に成果報告



古田肇知事(左端)に自慢のイチゴを手渡す4人の研修生
＝県庁

古田知事は4人が育を頼張り、「おいしい。てたブランドイチゴこれは売れる」と太鼓「濃姫」と「美濃娘」判。県産イチゴの海外

展開にも触れ「貴重な戦力として、岐阜のイチゴの名声をさらに高めて」と激励した。

脱サラして就農を目指す山口篤志さん(38)「美濃加茂市」は「思ったより大変で不安もあるけれど、消費者に喜んでもらえるイチゴを育てたい」と意欲を語った。

県は昨年度、農業の担い手を育成する5年間の事業を開始。同研修所などを就農研修拠点と位置付け、運営を支援。野菜や果物、畜産、酪農など5年間で2千人の新規就農者を育てるとしている。

(宮本寛)